



人生を輝かす 開拓者精神と熱い挑戦の精神



校長 大木 康弘

令和八年三月一日に三年生四十六名が本校から巣立っていきました。

さて、卒業式において、卒業生はもちろんのこと、在校生を含めたすべての白東高生に届けたいメッセージがあったので、式辞に込めました。式辞の一部を抜粋して紹介したいと思います。

―前略―

さて、私が好きな言葉であり、以前から先生たちに対しては、よく投げかけていた言葉があります。

「やってみなはれ」

サントリーの創業者・鳥井信治郎氏が遺した、失敗を恐れず新しい価値創造に挑戦する姿勢を表す言葉として、今も受け継がれているものです。正確に言うところ「やってみなはれ。やらなわからしまへんで」そして、この言葉を投げかけられた社員は「みとくんはなれ」と必ず返すそうです。失敗を恐れず、まずは行動してみるという開拓者精神、そして、やりきってみせますと

いう単なる挑戦ではなく、熱い挑戦の精神が今も企業に息づいており、若手自らがやってみようことを考え、汗を流しながらその実現に向けて行動する。それが、お茶の伊右衛門、缶コーヒのB.O.S.S、デカビタCなどのヒット商品開発に繋がっているそうです。

―中略―

私からもう一度、三つの問いかけをさせていただきます。

一つめ。私が「やってみなはれ」と投げかけることができるような、「やってみなはれ」と言われたい。夢を持つからこそ、志が生まれ、志が生まれるからこそ、生きていく活力が出てきて、その人を成長させます。できるだけ大きな夢をもってください。そしてそれをどこかで会った時、話してください。二つめ。私が「やらなわからしまへんで」と投げかけたとき、思い当たることがないようにしてほしいです。これからの人生において、問題は雑草のごとく次々と生まれてきます。問題から逃げても、問題は追いかけてくる。立ち止まって問題を眺めていても、問題はなくなりません。大きくなっていくばかりです。問題に向き合い、何らかの行動を起こしたときだけ、その問題は変化を起こします。小さくなった、なくなるまで行動し続けることが大切です。特にここにいる皆さんの悩

みの大きな種であり、ストレスをつくる最大のものは、人間関係づくりでしょう。全世界から最高の頭脳が集まるアメリカのハーバード大学ですら、学生が最も希望する科目は、コミュニケーション論。すなわち人間関係づくりの基礎を学びたいと願っている学生が多くいるということです。相手のことは、相手と話してみないとわかりません。自分の思いや考えは、相手に話してみないと伝わりません。どんな反応が返ってくるかも、予測できません。自分が立ち止まっているとき、自身に「やらなわからしまへんで」と投げかけてみてほしいと思います。三つめ。皆さんは「みとくんはなれ」と笑顔で、前を向いて私に返してくれるでしょうか。令和のこの時代、皆さん一人一人の独自の発想や視点に価値が置かれてきています。また、時に、他者の知恵を借りたり、助けを求めたり、時に、他者に自分の知恵を貸したり、助けたりすることで、共に輝いていこうとする、素直で、明るく、優しい人間性を持った人材を社会は求めています。ぜひ、自分らしさや人間性を膨らまし、「みとくんはなれ」と言いつつ、それぞれの人生の更なる高見に向かって歩んで行ってくれることを願っております。

―後略―

祝 辞

北海道白老東高等学校PTA

会長 堀部 貴志



卒業生の皆さんご卒業おめでとう
ございます。

そして今日まで温かく見守り
支えてこられた保護者の皆様にも
心よりお祝い申し上げます。
PTAを代表し卒業生の皆様にも
一言ご挨拶を申し上げます。
皆さんはこの三年間、勉強は
もちろん部活動、学校行事、友
人との関わりの中で多くの経験
を積み重ねてこられた事と思
います。

これらの中には思い通りにな
らなかった事や時には悩み、そ
して迷ったこともあったでし
ょう、しかしその一つ一つの経験
が皆さんを大きく成長させてく
れた大切な時間だったはず
です。

皆さんはこれから新たな道
を選び進んでいきます。

それぞれの道は違ってもこ
こで積み重ねた経験は必ず皆
さんの支えとなることでは
しょう。

どうか失敗を恐れず自分
らしく夢をもって進み、頑張
ってほしいと思います。

結びになりますが校長先生
をはじめ教職員の皆様には生
徒達に三年間温かく熱心なご
指導を頂いたことに心より感
謝申し上げます。

そして卒業生の皆さんには
これからの人生が希望に満ち
た素晴らしいものとなります
事を心より祈念いたします
私の祝辞といたします。

本日は誠におめでとうござ
います。



卒業おめでとう!





生徒会執行部

白東 新キャラクター



COMING SOON

No.1

「気づいたら白東を背負ってた件」

「白老東高校」令和七年九月十九日に生徒会役員選挙が行われ、後期生徒会が決まった。

生徒会長 2年 木村 光来

副会長 2年 赤坂 昇真

副会長 2年 鴨原 悠亜

書記 2年 峰陽々希

書記 2年 上野 新太

書記 2年 高橋 優維

会計 1年 進藤 奏斗

会計 1年 堀部 怜華

会計 1年 吉田 柊斗

会計監査 1年 飯塚 陽太

会計監査 1年 佐藤 かのん

文化専門委員 2年 齋藤 萌香

風紀専門委員 2年 細川 瑠椰

体育専門委員 2年 松井 優真

保健専門委員 2年 矢橋 欲大

【前期を振り返る】

前期生徒会は、前会長 中村を中心
に「地域へ踏み出す」姿勢を大切に
してきた。その挑戦は学校祭で実を
結び、地域を学校に巻き込む前例の
ない形を実現。数々の企画をゼロか
ら立ち上げ、「ゼロからイチ」を創
り出した一年となった。

白老東高校は、
熱い。



木村会長を筆頭に活動本格化



「あなたなら、どんな冒険がしたい？」



このロードマップは、完成図ではありません。
生徒会の挑戦は、関わる人が増えるほど広がっていきます。
あなたの一歩が、次の道になります。



大会結果

将棋

「総文祭将棋部門に参加して」

一年A組 志摩 隆平

僕は、7月29日(火)〜30日(水)に香川県で開催された第49回全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第61回全国高等学校将棋選手権大会に出場しました。

大会を振り返って、反省したことと良かったことがあります。反省したことは、緊張し過ぎてしまったことです。睡眠時間があまり取れなくなっていました。たことが原因で、対局中の集中力が低下したり、讃岐うどんなど、香川の美味しい食べ物を楽しんで食べるのができませんでした。次回からは、睡眠をしっかり取り、より一層対局に集中することはもちろんですが、対局以外でも、開催地の魅力を楽しみたいと思います。良かったことは、負けを恐れずに堂々と指せたとことです。強敵との対戦が続きましたが、怖がらずに自分の直感を信じて、自分らしい将棋が指せたと思います。今回の大会で、将棋の技術面でも精神面でも成長することが

できました。この経験を生かして、これからも良い将棋を指せるように頑張りたいと思います。

女子バスケットボール部

令和7年6月18日から行われた令和7年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会北海道予選会に2年B組上野優果さんが出場しました。上野さんは苫小牧中央高等学校との合同チームで出場し、活躍しました。

上野さんは「北見柏陽高等学校と対戦しました。全力は出したけれどどつと緊張していた記憶があります。昨年度の新人戦から二回目の全道出場だったけれど初めて出場するような感覚でした。普段、中央高校と合同練習ができる時間は限られているので、コミュニケーションをたくさんとることを意識しています。平日自分で練習するときも体力をつけたり技術を向上させ、試合の戦略について行けるように努力しました。今年度の新人戦では全道出場がかなわず本当に悔しかったので、引退するまでにもう一度全道大会に行きたいです」と語ってくれました。



「全国大会出場を決めた志摩さん」



「全道大会出場を決めた上野さん」

「見学旅行を終えて」

一年A組 稲田 葵

僕が見学旅行で学んだ事がたくさんあります。一つは、友達や班の人と協力する大切さです。協力しなかったらそもそも予定していた場所に行くのも大変だったろうし、見学旅行を全力で楽しむことはできなかったと思います。あらためて協力する事の大切さを実感できました。

二つ目は、自分達の地域の人たちの違いです。僕らの地域は京都や大阪と比べて人口が多

いわけではないので、一人一人がとても優しくあたたかいです。関西の人たちが優しくはないというわけではなく、北海道の人たちより自分から話しかけてくることは少ないし、そもそも日本人より外国人の方が多いと思いました。見学旅行で日本人の違いも分かったし外国人の私たちの優しさも分かりました。三つ目は、文化財が多かったです。歴史のある物が多くてびっくりしたことです。こちらも文化はないわけではないけど多いわけでもないのに向こうの文化、歴史にふれた時に数の違いに本当にびっくりしました。昔の人の頑張りなどが見えたような気がして、歴史に少し興味を持つことができました。

四つ目、最後に、住んでいる地域が違うだけで人なみにも人の違いがあるんだなと気付いたことです。もちろんどちらの地域も一人一人優しく、あたたかいけど人の数も全然違い持っていた文化も違う、昔の人にまだ違いがある日本はまだまだ知らないことがたくさんあるんだなと思います。他の場所にもさーらに違う文化があるだろうし、知りたいと思えているのも、見学旅行があったからだと思います。思い出ただけではなく学びもあつたいい旅行でした。本当にありがとうございました。



一学年 人図鑑

「人図鑑」の活動を通して
学んだこと

一年B組 畠山 楓華

私たちは、アコロコタンの活動で「人図鑑」を作成しました。白老の町を支える人々に直接伺い、インタビューさせていただきました。

やはり、見ず知らずの大人とコミュニケーションを取る機会など、日常ではほとんどないので、難しいこともありました。その一方で、人それぞれの人生や、見方・とらえ方に触れることができ、新しい発見や学びにつながりました。インタビューをさせていただいた方々から、「失敗を恐れず、色々なことにチャレンジしなさい。」「失敗をものにして楽しみなさい。」というような、我々高校生に向けて、たくさんのアドバイスを

いただきました。これらの言葉を胸に、夢に向かって頑張っていきます。

来年のアコロコタンでは、仕事図鑑をつくることになります。また、たくさんの方々にお話をお聞きできるのが楽しみです。

二学年 仕事図鑑

仕事図鑑を終えて

二年B組 小袖 悠磨

私は、アコロコタンの授業を通じて、仕事の大切さや当たり前のことへの感謝を学び、仕事の内容を改めて理解することができました。インタビューや発表が上手くいったのも、全て裏で誰か一人一人が頑張ってくれたおかげなのだと感じました。そこには数えきれないほどの人たちの支えがあり、その「支え」

を知ることは、すごく大切だと思います。だからこそ、これからは当たり前だと思っていることを、もっと大切にしていきます。「感謝する」というのは、とても簡単で、かつ、とても難しいことだと思いました。アコロコタンで得た知識を無駄にせず、これからの受験や就職に活かせるよう、まずは日々の勉強を頑張っていこうと思います。





令和7年度 進路決定状況

北海道白老東高等学校キャリア支援部
令和8年2月27日現在

【就職】

道内管内企業	計
生活協同組合コープさっぽろ	2
トヨタ自動車北海道株式会社	1
苫建設株式会社	2
医療法人社団玄洋会道央佐藤病院	1
日鉄テックスエンジ(株)	1
大昭和紙工株式会社	1
濱野鋼業株式会社	1
日本通運株式会社	1
野口観光プロフェッショナル学院	1
いすゞエンジン製造北海道	1
出光リテール販売株式会社	1
ホテルニュー王子株式会社	1
小計	14
道内企業	計
山崎製パン株式会社	2
ミツミ電機(株)千歳営業所	1
北海道エネルギー株式会社	1
日本貨物鉄道株式会社	1
小計	5

道外企業	計
小計	0
公務員	計
一般曹候補生 海上	1
一般曹候補生 陸上	1
小計	2
その他	計
小計	0
就職合計	21

【進学】

大学	計
北洋大学	1
星槎道都大学	1
北海道科学大学	1
小計	3
短大	計
光塩学園短期大学	1
小計	1
専門学校	計
札幌ビューティーアート専門学校	1
北海道リハビリテーション大学校	2
文化服装学院	1
札幌医療リハビリ専門学校	1
代々木アニメーション学院	1
札幌どうぶつ専門学校	1
日本工学院北海道専門学校	1
札幌ほいく専門学校	1
小計	9
看護学校	計
苫小牧看護専門学校	1
小計	1
進学合計	14

キャリア支援部より

今年度の進路状況を振り返って

【就職】

今年度の就職状況も引き続き人手不足による売り手市場と、なおかつ初任給も上昇傾向にあ

るといふ大変恵まれた環境にありました。このため、早期に希望する就職先を決め、夏休み中に企業見学に行くなど早めに動き出した生徒は次々と内定を決めていきました。その一方で、なかなか就職先を決められず、動き出せない生徒も目立ちました。自分の生き方を踏まえた進路選択ができるよう、早期からキャリア能力育成の必要性を感じます。

【進学】

進学者は大学3名、短期大学1名、専門学校9名で、そのうち学校推薦型の利用は4名でした。専門学校進学者の多くが総合型選抜(AO入試)を利用しています。早い時期からオープンキャンパスに参加して学校のことを研究する生徒が多く見られました。

【一・二学年生徒へ】

高校3年間の大きな目標は何と言っても卒業後の「自立」にあります。そのために必要なことは

1. 自己管理能力を高めること
2. 最低限の学力を身につけること
3. 心の耐性を身につけること

です。1については、まず欠席や遅刻・早退を減らすことです。いくら売り手市場とは言え、欠席が多いと明らかに就職は不利です。また、仮に就職・進学できたとしても、高校時代に欠席や遅刻の多い人は高い確率で早期離職や退学するケースが目立ちます。2については、就職したら仕事の内容や指示を理解し、必要があれば自分の力で必要な資格を取らなければいけません。そんなときも先生はいておかない限り自力で解決できません。自分でも学ぶ力をつけておかないと基礎学力が身につかないと、試験に合格できず補習の連続でいやになり退学する人が出てきます。3については、就職して資格を取るにしても、進学して試験に合格することから逃げない強い心が必要で、高校で楽な方に流され、進級・卒業さえできればよいと考え、安易に欠席・遅刻・早退したり、学力が身につかないまま卒業してしまうと、そのツケは後から大きな影響となって現れてくることを肝に銘じておかなければなりません。高校の3年間はそのくらい大事な時間だということを意識して過ごしてほしいのです。

編集後記

今年の卒業式は天気にも恵まれ、春のような暖かさの中で挙行することができました。卒業生たちの顔も明るく輝き、未来への期待にはち切れそうになっていくのが眩しく映りました。

さて、こうして三月一日には三十七期生四十六名を無事に送り出すことができました。これも各ご家庭のご理解とご協力のおかげであると感謝申し上げます。

この生徒たちが白老東高校の卒業生として、各々の進路をしっかりと歩んで行ってくれることを期待しています。

